

【樹木の部屋】

セイヨウキンシバイ (オトギリソウ科オトギリソウ属 *Hypericum calycinum*)

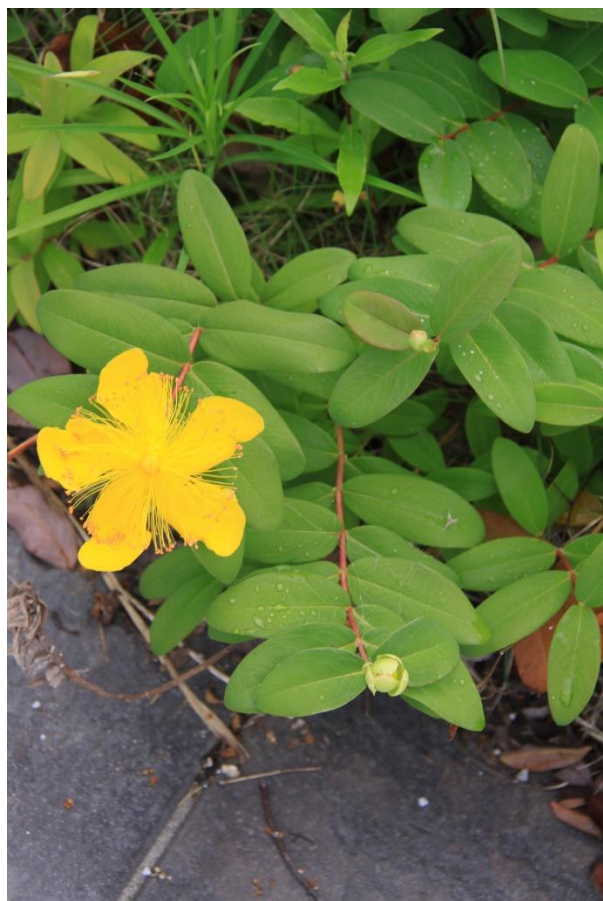
和名：セイヨウキンシバイ **別名**：ヒメキンシバイ (姫金糸梅)

英名：Aaron's beard, rose of Sharon

ツバキ目 常緑低木

原産地：小アジア

花言葉：悲しみは長く続かない、きらめき **花色**：黄



← 写真-1 セイヨウキンシバイ
撮影日：2020年5月31日
撮影場所：米原市郊外にて
撮影者：M さん

↓ 写真-2 セイヨウキンシバイの花
撮影日：2020年5月31日
撮影場所：米原市郊外にて
撮影者：M さん



← 写真-3 セイヨウキンシバイの小枝
撮影日：2020年5月31日
撮影場所：米原市郊外にて
撮影者：M さん



中国伝来の「キンシバイ(金糸梅)」に対し、トルコ方面からの伝来なので「西洋金糸梅」と呼ばれているそうですが、キンシバイよりも大きな花で、むしろ「ビヨウヤナギ」にそっくりな花です。公園や都市の植え込みによく使われる点でも同様に、あまり興味のない人には全く区別がつかないようです。ヒペリカム・カリシナムと呼ばれることが多いそうです。

樹高は約 30～50cm で地下茎で広がり、各節から茎が立ち上がります。地面を匍匐する様に広がる樹形をしている事から園芸では植え込みの地面を被覆する地被植物として利用されたり、背の低い生垣などとして利用されたりします。茎の色は緑色もしくは赤色です。

鮮やかな黄色の花色は、明るく開放的な印象を与えたり、レモンのような爽やかな印象を与えたりします。そのため気分が向上する様な爽やかで明るい庭や、様々な花色を組み合わせたカラフルなお庭などによくあうそうです。夏の暑さ冬の寒さに強く、地植えしている場合は水やりも肥料も殆どいらないため放任して育てる事も可能だそうです。

葉は対生する単葉で、葉色は緑色、葉柄は無しもしくは非常に短く、長さ 4～10cm の長楕円形、腺点があり、葉の縁は全縁です。

花序は枝先にふつう 1 個もしくは 2～3 個をつけ、径 5～7cm で黄色の 5 弁花で、雄蕊が著しく多く、また花弁と同程度の長さがあるため、花弁の上で球状の外観をつくります。

<ちょっと一言>

セイヨウキンシバイとビヨウヤナギの見分け方は

＊セイヨウキンシバイ

- ・雄蕊：直線の密な雄蕊が放射状に広がります。
- ・葉：平面的な対生です。

＊ビヨウヤナギ

- ・雄蕊：雄蕊はまばらに上に向かってカールしています。
- ・葉：立体的な十字対生です。